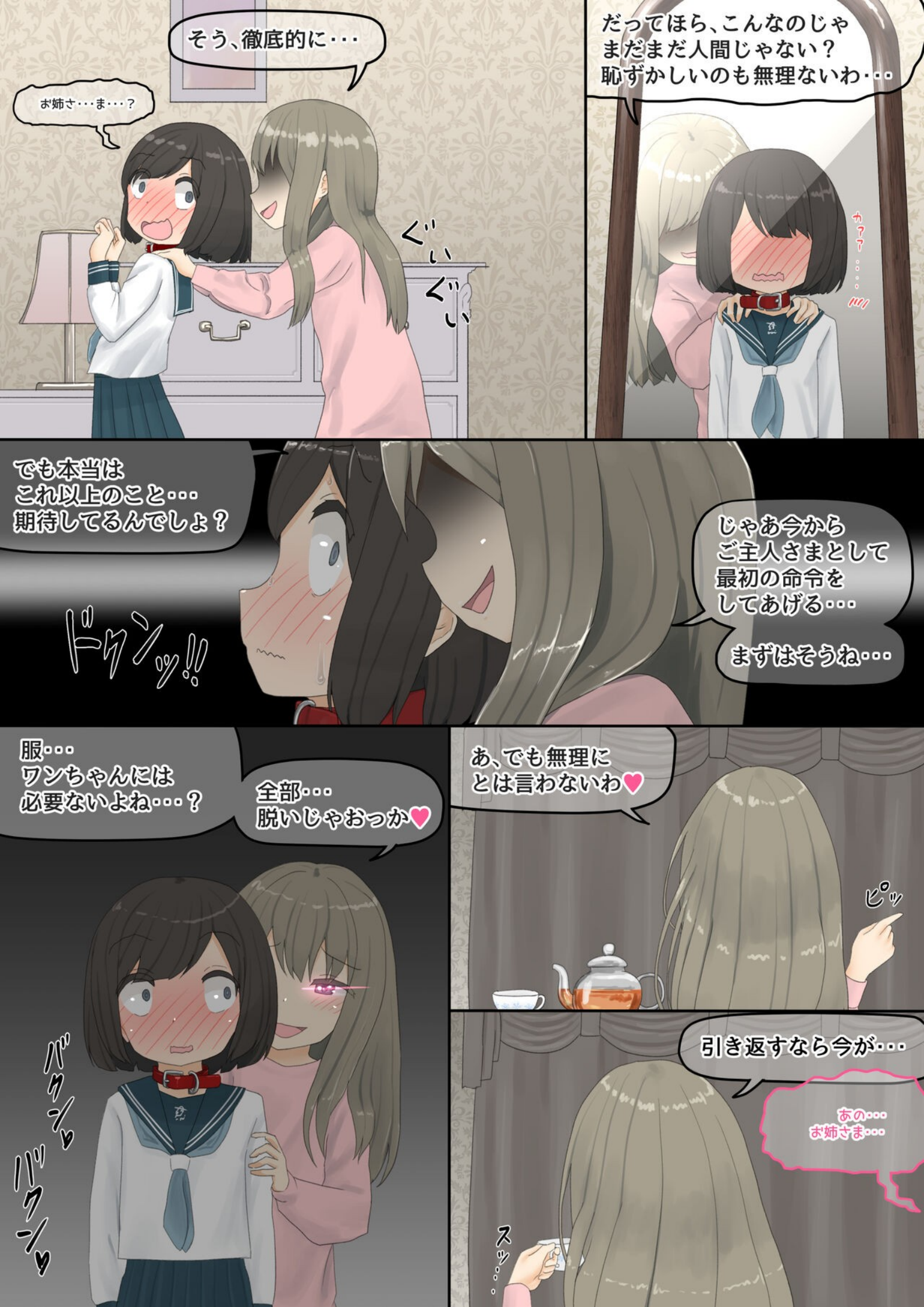
そ、そろそろかな？
いつもこのぐらいの
時間なんだけど…
ドキ♥
ドキ♥
きたっ!!
ありがとう
じいや
ごっ、ごきげんよう!!
お姉さま!!
ごきげんよう栗栖川さん
今日も元気いっぱいね♥
あっ、ありがとう
ございますっ!!
…ふあああああ、今日もお姉さま綺麗だなぁ～♥
なんかふんわりといい香りもするし…
…それでね、
お母様ったら
また間違えて
赤ピーマンと
ジョロキアを…
うぐぅ…もっと近くで嗅ぐことができたら…
そして思いっきりハグしてもらいたい…
でもそんなことお願いして変わった子って
思われちゃったらヤだしなぁ～…
あ、そうそう
栗栖川さん
は、はいっ!!
やばっ!!
凝視してたの
バレたっ!?

今週末はお暇かしら？
や、やったあ〜っ♥
お姉さまからのお誘いだっ!!
あとで美容院キャンセル
しとこぉ〜っと♥
!? は、はいっ!!
空いてますケド・・・
ドキ
ドキ
それなら良かったわ！
今度ウチのホテルの
プレオープンパーティ
があるんだけど、
一緒にどうかな〜って♥
ただね、ちょっと泊まりに
なっちゃうのよ・・・
くわっ!!
ぜったい
いきます!!
じゃあ宿題とかササッと終わらせるから
金曜日終わったらウチにいらっしゃい♥
は、はいいいいっ!!
・・・・・でねでね、
最近宿題終わったらご褒美で
子犬動画をよく見るんだけど
・・・ほら、この子♥
わぁ!!
かわいい〜♥
ワン!!
ワン!!
ね〜♥
でさ、もしもの
話なんだけど・・・
もし私が栗栖川さんを魔法で犬にして
飼いたいって言ったらどう思うかしら？
えっ、わ、私なんかで
よければ是非っ!!
あらあらっ♥
ワン♥
ワン♥
ぽわわーん♥
そう!? じゃあ・・・
さっそくなんだけど・・・
ワン♥ワン♥ワン♥
ワン♥
ワン♥
きゃあ♥
ドタッ!!
ゴソ・・・
えへ♥
えへ♥

これ、
つけてもらおうかな～♥
……首輪…
ゴクリ…
はいっ、そのまま！
え、ええっと
…わんっ
あはは♥
トッ
トッ
じゃあ「栗」栖川さんだから
これつけてる時は
マロンちゃんって
呼ぼうかな～？
マロン…
トッ
トッ
ほら～マロンちゃんお手！
……わんっ
ドキ
ドキ
じゃあさ、もっとこう…
恥ずかしさを吹き飛ばすほど
徹底的にさ…ワンちゃんに
なってみない？
徹底的…
うるっ♥
あはは♥
やっぱり恥ずかしかった？
あの…
ハ、ハイ…
プシュー…
あはっ♥
そっかー♥


そう、徹底的に・・・
お姉さ・・・ま・・・？
ぐいぐい
だってほら、こんなのじゃまだまだ人間じゃない？恥ずかしいのも無理ないわ・・・
カァァ・・・
でも本当はこれ以上のこと・・・期待してるんでしょ？
ドクンッ!!
じゃあ今からご主人さまとして最初の命令をしてあげる・・・
まずはそうね・・・
服・・・ワンちゃんには必要ないよね・・・？
全部・・・脱いじゃおっか♥
バクンッ
バクンッ
あ、でも無理にとは言わないわ♥
ピッ
引き返すなら今が・・・
あの・・・お姉さま・・・
スッ・・・

「ぬ、脱ぎました・・・」
私はお姉さまの前であられもない姿に・・・は、恥ずかしい・・・
だけどそうなのだ・・・私はお姉さまの読み通り「これ以上のこと」を期待しているのだ。
そしてこの感じ・・・お姉さまの言う「これ以上のこと」とは間違いなくイケナイことだ・・・
それにここまでしたんだ、一体どんなイケナイことをされちゃうんだろう？
・・・と内心とてもワクワクしている。
「あらぁ、ずいぶんと聞き分けがいいじゃないの♥
じゃあいいわ、ちょっと準備するからそこの鏡の前で手を広げて・・・」

なにやら部屋にシートが広げられ、塗料のような缶が準備される。
そして私は言われたとおりに鏡の前で手を広げた。
「は、はいっ!! できましたっ!!」
「いいわぁ♥ じゃ、お望み通りもっとワンちゃんにしてあげる♥」
「は、はいいいっっっ!!」
もっとワンちゃんにされてしまう！
お姉さまだけのワンちゃんにされてしまう!!

お姉さまは私の腕を塗り始めた。
「うひゃっ!!」初めての感覚で思わず声が漏れる。
「ほぉら、動かないの♥」
そういうお姉さまは満面の笑みを浮かべている。

お姉さまは手際よくどんどん私の体を塗っていく。
「こういうところもちゃんと塗り残しのないようにしておかないとね♥」
お尻の割れ目の中までずりゅずりゅと刷毛が入り込む。
「ひぁっ♥ はひっ♥」
その柔らかい毛の束が私の敏感なところを撫でる度に情けない声が上がる。
その度にお姉さまが「あらマロンちゃん、こういうのが好きなの？ イケナイ子ねぇ～♥」
…と言わんばかりの嘲笑の目を私に向ける。
あぁぁ、私の弱みがどんどんお姉さまに握られていく…

お姉さまに精神まで支配される感覚を覚え始めた頃には体は塗り終わっていた。
こ、これが私・・・？
白く塗られた自分の体はなんだかピカピカのマネキンみたいでとても綺麗だ。
「ほらほら～、顔も塗るわよ～♥」

「んんっ!!」
お姉さまの刷毛は容赦なく私の顔を塗りつぶす。

目を開くとそこには人形のような女の子が目の前に立っていた。
「うわぁ～♥」
正直自分の裸体ってこんなに綺麗だったんだという驚きも感じつつ
思わずうっとりしてしまう。

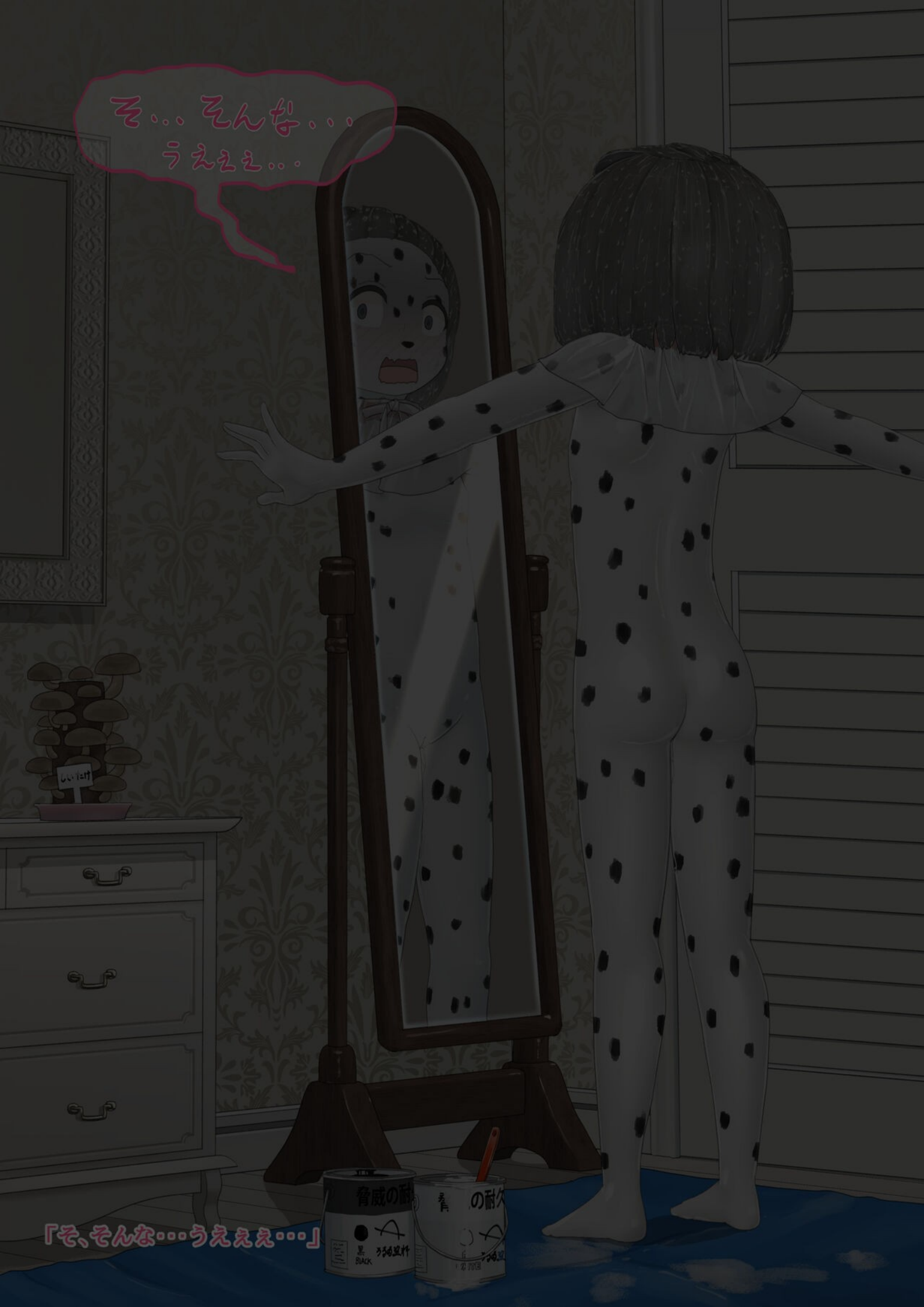
お姉さまは手際よく次の色を塗っていく。
あ、これダルメシアンだ…
自分の体が一気に犬っぽくなっていくことに軽い興奮を覚える。
ダルメシアン…なんだけども…このままだと髪の毛の色が浮いちゃうな～…
とかなんとか思っていたらお姉さまから、

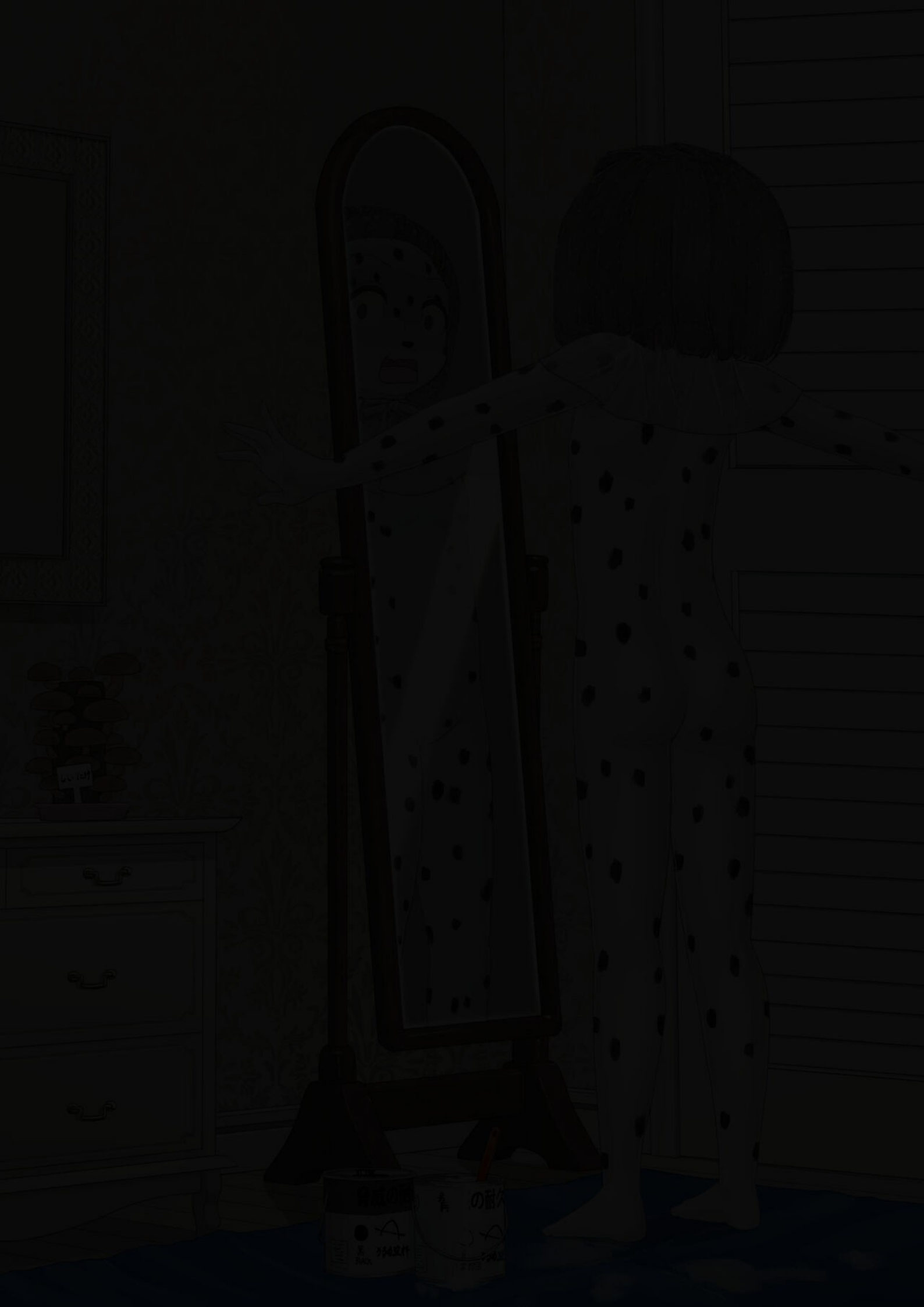
「髪の毛もブリーチしちゃうけど、ここまでされておいてダメってことはないでしょ？」
お姉さまは手を止めずに笑顔のまま言った。の耐久
あはは･･･私の考えてること全部お姉さまに読まれてるよw
しかし初めてのブリーチがこんなガチで経験することになるだなんてなぁ～･･･

「はい、終わり！」
これで髪の毛全部脱色しちゃうよ・・・
うわぁ、私どんどん取り返しのつかない感じで犬になっていってる・・・

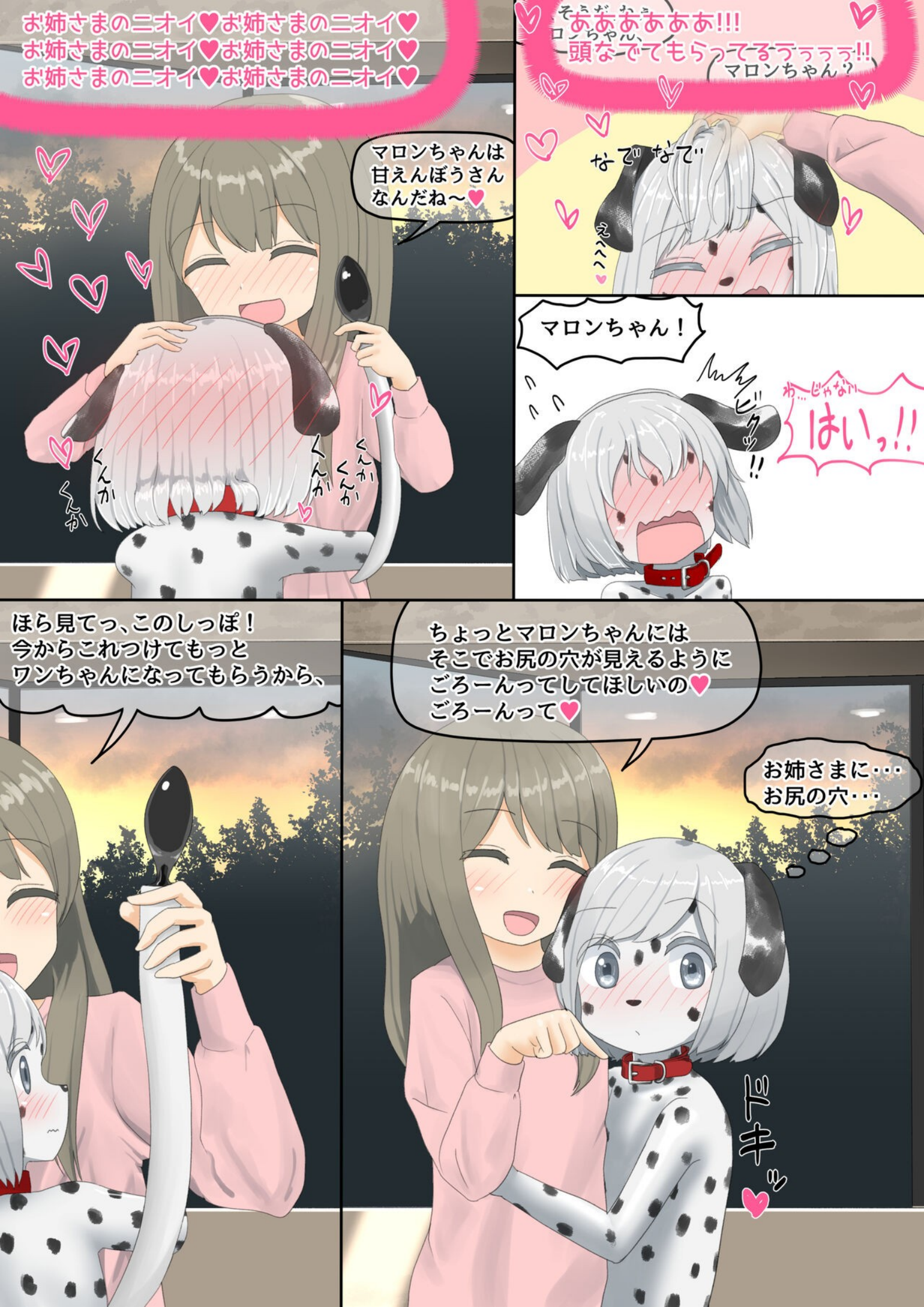
「じゃ、乾くまで時間かかるから私が呼ぶまでずっとそのポーズのまま待機しててね♥」
「へっ？」

「あの、お姉さ･･･」
「はい動かない！　せっかく綺麗に塗れたんだから完全に乾くまでそのまま「待て！」だよ！」


そ…そんな…
うえええ…
脅威の耐
の耐久
BLACK
「そ、そんな…うえええ…」



はい、
おつかれさま～♥
ブオオ!!
もうっ、髪の脱色ってのが
こんなにも大変なものだとは
思ってませんでしたよ!!
塗ったり洗ったり
塗ったり洗ったり…
あはは♥
まぁほら、その甲斐あって
耳をつけたらこの通り、
こんなにもかわいい♥
げんなり…
ほ、ほんとだ…
私…ワンちゃんだ…
これは…ゴクリ
ポッ♥
お…おねえ…
さ…ま…♥
だ、だめだ…
抑えられない…ッ!!
なあに？
ハァッ
ハァッ
ゴソ…
あらあら♥
まだ尻尾つけてないのに
もう完全にワンちゃんね♥
ワン♥
ワン♥
ワン♥


お姉さまのニオイ♥お姉さまのニオイ♥
お姉さまのニオイ♥お姉さまのニオイ♥
お姉さまのニオイ♥お姉さまのニオイ♥
マロンちゃんは
甘えんぼうさん
なんだね～♥
くんか
くんか
くんか
くんか
そ、そこがおこ
ああああああ!!!
ロンちゃん、
頭なでてもらってるうううう!!
マロンちゃん？
なで なで
へへへ♥
マロンちゃん！
ビクッ!!
わ…じゃなかった
はいっ!!
ほら見てっ、このしっぽ！
今からこれつけてもっと
ワンちゃんになってもらうから、
ちょっとマロンちゃんには
そこでお尻の穴が見えるように
ごろーんってしてほしいの♥
ごろーんって♥
お姉さまに…
お尻の穴…
ドキッ♥

「あ、あのお姉さま・・・本当にお尻の穴・・・じゃなくて・・・えっと・・・」
黙ってここまでされてておきながら今更何を聞いてるんだ、私・・・
どうやら覚悟が決まっていない私の人間部分が最後の抵抗をしているようだ。
「いいのよマロンちゃん、あなたは犬になるんだから
・・・もう何も難しいことなんて考えなくていいのよ？　安心してごろーんってしなさい♥」

お姉さまの言葉に押されて思い切って私は床に寝そべり、お尻の穴をお姉さまに向けた。
「わ、わん♥」
あ、あはは、お姉さまに私の恥ずかしい部分全部見せつけてる･･･
でもなんだかすごく満足している感覚がある･･･

「よーしよしよし、マロンちゃんいい子だね～♥
それじゃあ安心してどんどんワンちゃんになっていってね♥」
しっぽがお尻にあてられる。
こ･･･これが私の中に入ってくるんだ･･･

ずぶずぶ・・・
う・・・入ってきてる・・・
このしっぽをつけたら私はもう完全に・・・

うへへへへ･･･変な感覚･･･
入ってくる入ってくる･･･わ、わん♥
あああああ///　私の頭もどんどん犬になっていく･･･

ずぷっ♥

は、はいっちゃったぁぁぁ･･･♥
うわぁ～･･･もしかして痛いんじゃ？とかなんとか思っていたけど
まるで犬になることを自ら受け入れるかのように
すんなりと飲み込んだ自分のお尻に驚きだよ･･･

はぁはぁ･･･ごしゅじんさまが･･･こっちみて･･･笑ってるぅ･･･♥
はぁはぁはぁはぁ･･･
頭の中まで完全に犬になってしまったようだ。
視界にご主人さまがいるというだけで今まで味わったことのない幸福感に支配されている。
「あはっ、もう完全に犬になっちゃった？
でももう一つだけしなきゃいけないことがあってね･･･」

※プレイの演出です。実際には中身はありません。

グサッ!!
痛ぅ!!
いや〜、この子は
お注射でもおとなしくて
おりこうさんですね♥
マロンちゃん
がんばったね〜♥
では、
私は次があるので・・・
はいっ、
ありがとう
ございました！
うっ・・・
ぐっ・・・
うふふ、マロンちゃん、さっき打ったのはね、
本物の個体識別番号の入った正式な
マイクロチップだからね・・・
マロンちゃんはもう身も心も法律上も
「正式に私の飼い犬」
になったのよ？ どう？ うれしい？ww
わたし・・・身も心も法律上もお姉さまの
飼い犬になっちゃったんだ・・・♥♥
はぁ、、、
はぁ・・・♥
じょわぁ・・・♥
あらあらw

こんなところでおしっこしちゃうだなんて躾が必要なようね～♥

わうぅ…
ごめんなさいごめんなさい

仕方ないなぁ、じゃ、ちょっと掃除するから終わるまであのケージの中に入ってなさい♥
飼い犬の不始末は飼い主の責任だからね♥

ううう…わん…

さっ、ハウスハウス!!

わうっ!!

ぺちん!

ガシャーン!!

…檻の中…

…ご主人様を待つ犬の気持ちってこんな感じなのかぁ…
む、この毛布、お姉さまのニオイが…

スンスン

マロンちゃ～～ん
お掃除終わったよぉ～♥

…およ？

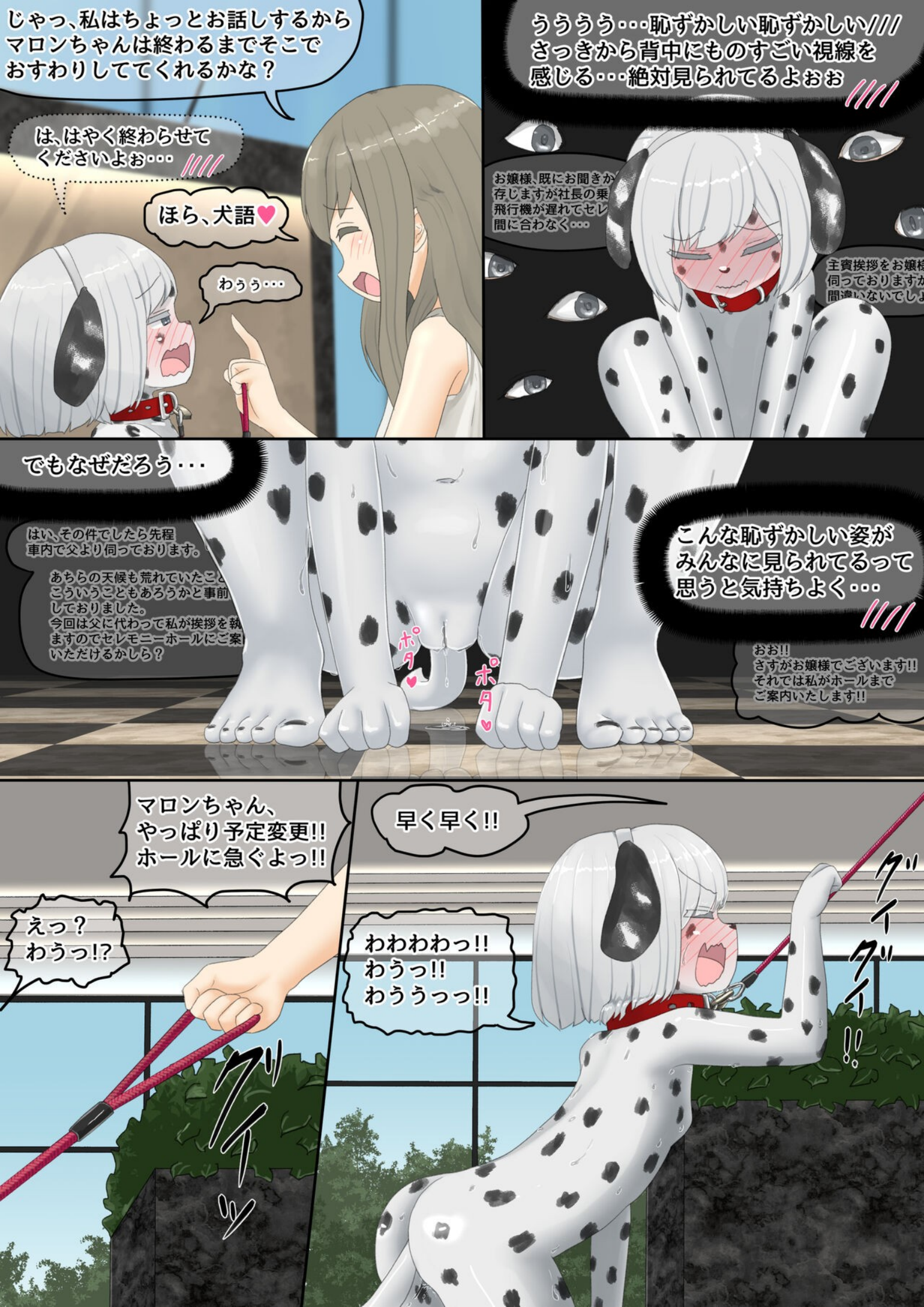
すや すや

あらら、寝ちゃってる…
まぁいっか！
本当のお楽しみは
明日からなんだしね♥

・・・んん？
んんんんん!?
ARRIVED
目的地周辺です
あ、マロンちゃんおはよ～！
今ちょうど着いたところだよ～♥
へ？着い・・・うぇっ!?
ちょっ、私まだ服きてな・・・
じゃ、これから一緒に
チェックインしなきゃね♥
えっ？ えっ？
うそっ？ 本気でっ？
ガチャッ

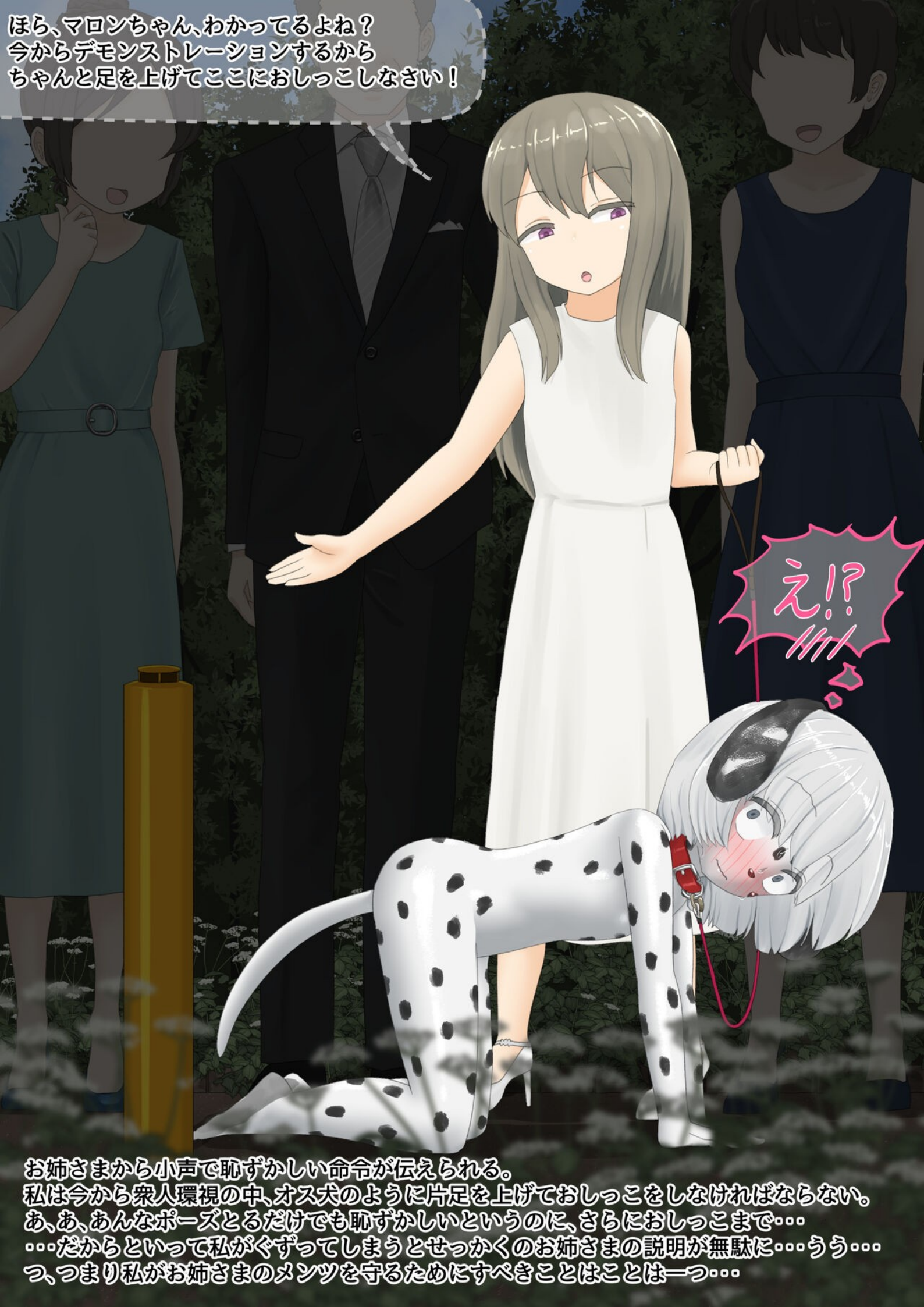
行くよ〜!! マロンちゃん!!
いやいやいやいや!!
私こんな格好!!
グイッ
ほらっ、車も行っちゃったからどちらにせよ前に進むしかないからね♥
さすがにこんな場所では!!!!
ブッコロ…
ほらほら、みんなに注目されてるんだしマロンちゃんは私のワンちゃんとしておりこうさんにしてないと♥
ううぅぅ…
わん…
うわぁあぁあああ!!!
見られてる!! 見られてるぅぅ!!
バクン♥
ドクン♥
バクン♥

いやぁぁぁぁ
あぁぁぁ!!!


じゃっ、私はちょっとお話しするから
マロンちゃんは終わるまでそこで
おすわりしててくれるかな？
は、はやく終わらせて
くださいよぉ･･･
ほら、犬語♥
わぅぅ･･･
ううううう･･･恥ずかしい恥ずかしい///
さっきから背中にものすごい視線を
感じる･･･絶対見られてるよぉぉ
でもなぜだろう･･･
こんな恥ずかしい姿が
みんなに見られてるって
思うと気持ちよく･･･
ポタ♥
ポタ♥
マロンちゃん、
やっぱり予定変更!!
ホールに急ぐよっ!!
早く早く!!
えっ？
わうっ!?
わわわわっ!!
わうっ!!
わううっっ!!
グイッ
グイッ!!

・・・そして大切なワンちゃんとご一緒に
リゾートをお楽しみいただけますように
全室ドッグフレンドリールームとして・・・
・・・また、ホテル専属の獣医師による
ワンちゃんの健康診断サービスなども
充実し・・・
うわあああああああああ!!!
いやあああああああ!!!!!
早く終わってぇぇぇぇぇ!!!!!
最後に愛犬家の皆様向けに
当ホテル自慢の散歩コースの
ご紹介をさせていただきます。
うえっ!?
まだあるの!?
スタスタスタ・・・

外に出てしばらく歩いたかと思うと、いかにもな棒の手前でお姉さまは足を止めた。
散歩コースの中に一定間隔で設置されている頑丈そうな棒･･･
お姉さまの説明を聞く限りやはりこの棒はマーキング用の棒であるようだ。



お姉さまから小声で恥ずかしい命令が伝えられる。
私は今から衆人環視の中、オス犬のように片足を上げておしっこをしなければならない。
あ、あ、あんなポーズとるだけでも恥ずかしいというのに、さらにおしっこまで…
…だからといって私がぐずってしまうとせっかくのお姉さまの説明が無駄に…うう…
つ、つまり私がお姉さまのメンツを守るためにすべきことはことは一つ…

何事もなかったかのように説明を続けるお姉さま。
私は意を決しておしっこをするオス犬のように片足を上げた。
足を開いて丸出しにした私の恥部にお外の風が当たる・・・
みんなの視線さえなけりゃ結構好きな感覚なんだけどな・・・なんて思いながら
ご主人さまの威厳を守るために私は言われるがままにお腹に力を入れた。

びゃーーーーっ!! びちゃびちゃびちゃ!!

勢いよくおしっこが飛び出る。
とても恥ずかしいことなのに、ご主人さまの命令通りちゃんとおしっこが出来てほっとしている自分に気がつく。

今の私は全裸で全身に犬の模様を塗られて耳と首輪をつけ、お尻に尻尾を差し込んで、
あげくに本物の飼い犬用マイクロチップまで埋め込まれてしまった女の子…
そして大勢の人たちの目の前で丸出しのまま四つん這いになってご主人さまの命令通り
片足をあげておしっこをしている…
なんだかもうここまでくると人間として守るべきものが全部ぶっ壊れて身軽ささえ感じる…
そのせいかお外でおしっこをするという開放感をとても素直に味わえている…

…出し切っ…ちゃっ…た…♥
…大きな声で言えないけどこれ、今までで一番気持ちいいおしっこだったかもしれない…♥

どうやらこのポールのようなものは自動水洗機能を備えていたようだ。
っていうか、私せっかくマーキングしたのに全部流しちゃうの!?
えええぇぇぇ〜…残念だなぁ…と、完全に犬としての感想が出てきている。

それでは次に参りましょう！

こちらのドッグランでされたウンチは
専属のスタッフが速やかに処理をいたします。
それでは実践してみましょう！
じゃあマロンちゃん、ここでウンチをしなさい♥
お姉さまは私の尻尾を
外してさっきのと比べ物に
ならないほどの恥ずかしい
命令を下す。
う、うそでしょ…
こんなに人が見てるのに…

しかしそれと同時にこれほどの命令をこなしたらどれほどお姉さまの飼い犬として満たされるのだろうか？
…という好奇心に駆られているのも事実である。
そ、それにほら、お姉さまのメンツもあるんだし、ここまできたらもうどうとでもなれだ。
ゴクッ…

んんっ…
私は人目も気にせず力み始めた。
んっ

ムリュムリュムリュ…
衆人環視の中、全裸で太陽に照らされて草の匂いをかぎながらうんちをする経験が
出来るだなんて想像すらしなかったけど、今やってることがまさにそれなのである。
ムリュ
ムリュ…

はぁっはぁっはぁっはぁっ･･･
「やっちゃった～･･･私こんな格好して何やってんだろう･･･」という人間の感情と
「ご主人様の言う通りちゃんとうんちしたよ!! 褒めて褒めて♥」
という犬の感情が同時に湧き上がったけども、正直犬の方が優勢です。

オプション料金はかかりますが、
回収したうんちを利用して健康診断の
サービスもご用意しておりますので、
どうぞお気軽にお申し付けください。
お姉さまの説明は続く、
私はこれだけ恥ずかしいことを済ませてしまったせいでもう怖いものなしだ。
お股丸見えで寝っ転がったりなんかして「言う通りにしたからご褒美をくれ」と
アピールをしている。
はっ♥
はっ♥
はっ♥

説明は以上です！
それではここまで頑張ってくれた
マロンちゃんにもご褒美をお願いします！
きゃうん♥
きゃうん♥
なで
なで
一斉に撫でられる私、正直悪くない感覚だ・・・

お外でたくさん遊んで
汚れちゃったらこちらで
シャワーが利用できますよ！
お外から丸見え･･･
落ち着かないシャワー
ルームだなぁ･･･
また、当ホテルオリジナルの
オーガニックシャンプーを
ご用意しております！
organic
organic
organic
はい！ それでは
ワンちゃんに関する
ガイダンスは終了です！
ゴシ
ゴシ
あぁ～～･･･
やっと終わった･･･
･･･あれっ？
これ犬の柄
落ちてきてない？
ちょっ･･･せっかく精神も犬になって
みんなの前で裸になっても平気だったのに
今人間に戻ったら恥ずかしさで･･･!!
わうっ
シャワァァァ･･･
うわあああああ!!!!
ザー
!!

それでは今回頑張ってくれた
栗栖川さんには今一度
大きな拍手をお願いします♥
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
ありがとー♡
かわいかったよー♡
ちょっ!?
名前!!
恥ずかしいいいいぃ!!
犬になってたときは裸でも
割と平気だったのに!!
ガクガク
ガクガク
パチ
パチ
パチ
パチ
いや～
おつかれさまぁ～
ふぅぅ～･･･
恥ずかしかった･･･
612
さあさあ!!
ゆっくり休むと
いいよっ!!
まだ心臓バクバクで
ゆっくり休めそうに
ないのですが･･･
バクン♡
バクン♡
結局あれから朝まで
爆睡してしまった･･･
レストラン
朝食チケット
Restaurant
おはようございます
お席にご案内いたし･･･
栗栖川さん!!
こっちこっちー!!

おはよ～だワン♥
わお～ん♪
!?
お、おね、おね、
えええええっ!?
ん？
あはっ、驚いちゃった？
実はここってそういう人達が
集まる施設なのよ♥
ほらっ！
な!?
ギチ
ギチ
はっ♥
はっ♥
はっ♥
てことで今日は
栗栖川さんが
ご主人様だワン♥
わんわんっ♥
そ、そんな…
恐れ多いですよ
私なんかが…
あっ、それとも
栗栖川さんも犬になって
一緒にワンワンする方が
お好みだったかしら？
へっ!?
はぁ～ん？
ドキッ♥
おしまい？

裸に海風が当たるのって
気持ちいいよね～♥
わん
わんっ♪
お、お姉さまと…
繋がったまま///

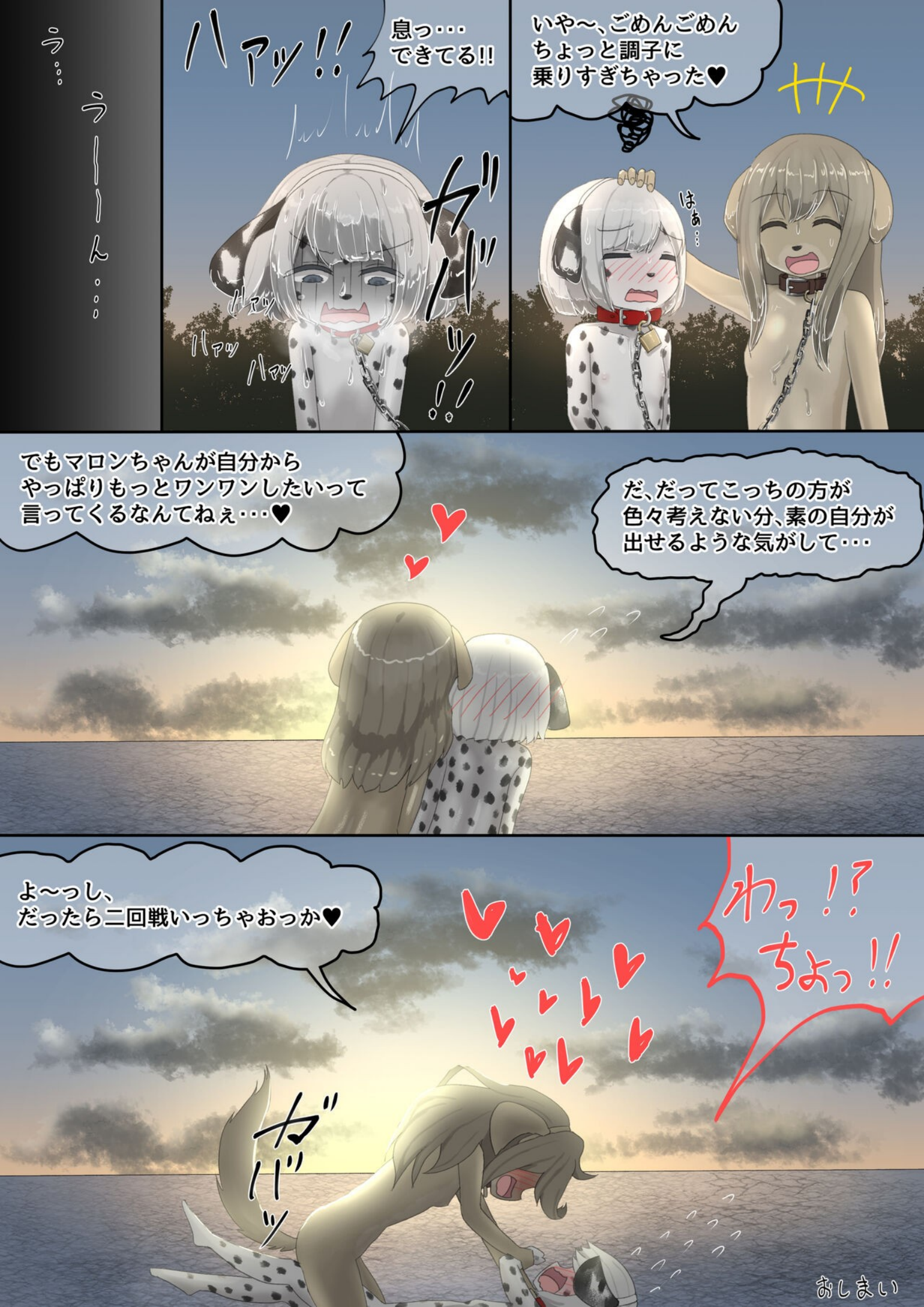
いや～、前々から栗栖川さんと
こんなことできたらいいな～って
ずっと思ってたのよね～♥
わんわんっ♡
わ、わたしもずっと夢を
見ているような気分です///
わ…わんっ///
気持ちいい～～～っ!!
すっごい「自然!!」って
感じしない？
私って今すっぽんぽんで
お姉さまと犬の格好して
お外歩いてるんだよね!?
色々丸見えだ…///
わふ、ーん♡
はわわわ///
は？
ほっ!!
ぴょん!
え…
ちょっ!!
ドブーン!!
ドブーン!!
ゴボボボボ…
い…息…!!
ゴボッ
うわあっ!?
ゴボボボボ!!
グイッ

もうだめ･･･息が･･･!!

もうだめかと思ったその時、何かが私の手をつかみ
私の口の中へと無理やり空気を送り込んできた。
ふぅ、ほぉ、ふぅ、ほぉ・・・あぁぁ、徐々に意識が戻っていく・・・
「!?」
思わず目を見開く・・・お、お姉さま!?
!?
ゴボゴボッ

私･･･口移しでお姉さまに空気を送ってもらっている･･･
よく考えたらこれって･･･ディープキスだ･･･
んんんっ･･･空気を送るお姉さまの舌が私の舌に触れる。
私は思い切って自分の舌をお姉さまの舌に押し付け･･･絡め回し始める。
お姉さまは静かに受け入れてくれる･･･ああ･･･水の音が心地いい･･･

あの清楚なお姉さまとこんな変態じみた格好をして海の中でぎゅっと抱きしめ合う…
この瞬間がずっと続けばいいのに…あ、でもさすがにそれだと空気が…
でもこのまま逝けるのならそれはそれで…
夢見心地のまま、どんどん意識が海に溶けていく感じがする…もっと…このまま…


ラ…
ラーーーん…
ハアッ!!
息っ…
できてる!!
ガバッ!!
ハアッ
ハアッ
ハアッ
いや〜、ごめんごめん
ちょっと調子に
乗りすぎちゃった♥
はあ…
でもマロンちゃんが自分から
やっぱりもっとワンワンしたいって
言ってくるなんてねぇ…♥
だ、だってこっちの方が
色々考えない分、素の自分が
出せるような気がして…
よ〜っし、
だったら二回戦いっちゃおっか♥
わっ!?
ちょっ!!
ガバッ
おしまい